
千種区の活動事例



千種区

千種学区文化祭



【千種学区】

■世帯数：4,906 世帯

■人 口：8,262 人

■面 積：0.753 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- 千種小学校体育館を会場に「千種学区文化祭」を開催。延べ参加者数は約 800 人。
- コミュニティセンターで活動するサークルや教室、第二幼稚園、千種小学校和太鼓部、小学校の教職員など様々なグループが発表を行う「芸能発表の部」と絵画、書道、クラフトなどの作品を展示する「作品発表の部」で構成されている。当日は子ども向けの折り紙教室や模擬店を行っている。
- 11 月の文化の日周辺で日程を決め、各団体に参加を呼びかける。参加者への説明会と実行委員会の打ち合わせを重ね、準備を進める。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、回覧、ポスターの掲示、当日のタイムスケジュールをパンフレットにして学区の各世帯に配布。

【アピールポイント】

学区の文化祭であるが、地域住民だけでなく、幼稚園や小学校の園児・児童・教職員も参加し、地域・学校・家庭が三位一体となって取り組んでいる。

2 きっかけ、背景

もともとはコミュニティセンターで開催される教室の発表会をコミュニティセンターだけで小規模に行っていたものを、会場を小学校の体育館に移し、学区の文化祭として立ち上げた。その際に小学校や幼稚園に協力を呼びかけ、スケールの大きなものにした。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
民生委員児童委員、PTA、女性団
体・女性会、子ども会、防犯交通協
会 計約 50 人

(2) 他団体との協力

千種小学校、第二幼稚園

(3) 運営協力

小学校、幼稚園に運営協力を依頼
している。

5 成果と課題

(1) 成果・効果

参加者の増加、住民意識の高まり、住民間の交流の深まり。住民・学校・幼稚園など多くの人が参加することにより交流の場となり世代間交流も深まっている。

(2) 苦労した点

参加者の調整。年々参加者は増加しているのは良い傾向だが、会場の広さ等は限られているので展示範囲、舞台時間の調整に苦労している。

(3) 今後の課題・展望

活動資金の確保。参加者全員に配布する記念品の調達や当日の経費など資金面で限りがあるため予算の工夫が必要。

(4) メッセージ・アドバイス

小学校や幼稚園からの参加を得られると、その保護者も参加することになるため、来場者も増えて活気が出る。

4 実施のスケジュール

毎年 6 月 開催日決定、各団体に周知



7 月 組織立ち上げ



8 月 参加者・団体募集のチラシ配布



9 月 参加者向けの説明会・実行委員会
開催



10 月 ポスター掲示、案内状配布、当日
パンフレット各戸配布



11 月 各団体の打合せ、音合せ、当日必
要なものの準備 文化祭開催

共生型ふれあい いきいきサロン 3あいお茶飲み会



【千石学区】

■世帯数：3,385 世帯

■人 口：6,685 人

■面 積：0.599 k m²

平成 26 年 7 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・千石コミュニティセンターで毎週 1 回火曜日に開催している「共生型ふれあい いきいきサロン」にて、高齢者と子育て中の親子が交流することを目的に「3 あいお茶飲み会」を開催。同じフロアで 3 世代が集える昔の家族の姿をイメージし、「3 あい」は「であい・ふれあい・ささえあい」から来ている。
- ・平成 24 年で 10 年目を迎え、参加者数は毎回約 100 人。
- ・小物づくりや楽器の演奏、保健師による講座に加え、ひなまつりやクリスマスなどの季節行事も盛り込んでいる。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示、毎月の学区連絡協議会の会議での呼びかけ

【アピールポイント】

平成 24 年 5 月で 10 周年を迎え、コミセン祭りにおいて、学区内住民でお祝いできた。高齢者と子育て中の親子が毎週来なくなるお茶飲み会を開いている。

2 きっかけ、背景

高齢化が進み、サロン会場がなく困っていたところ、平成 14 年に千石コミュニティセンターが開所し、毎週火曜日に「共生型ふれあい いきいきサロン」が開

催されることとなった。高齢者の地域での孤立を防ぎ、子育て世代の仲間づくり支援と不安感をなくすため、高齢者と子育て世代の交流を推進し、千石学区に住んでよかったと感じてもらえるよう、「3 あいお茶飲み会」を開催することとした。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、消防団員、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、ボランティア
計約 15 人（毎週）

(2) 他団体との協力

民政委員児童委員が中心となり、区政協力委員、学区連絡協議会が協力。また、5 人のボランティアが毎週の会場準備等に協力している。

(3) 運営協力

学区連絡協議会の各団体が当番制で毎週運営を行う。

4 実施のスケジュール

H14 年 千石コミュニティセンター開所、
4 月 サロン開設



H17 年 全国児童大会にて発表、全国社会福祉協議会の取材を受ける。その後、他県からも複数の見学が訪れる。
2 月



H26 年 サロン 600 回を祝う
8 月

5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民間の交流の深まり。毎回高齢者（女性約 40 人、男性約 15 人）、親子約 50 人が集いとても楽しいと好評を得ている。

(2) 苦労した点

参加者の確保、活動の担い手不足、他団体との協力。最初から運営等での役割分担をしっかりとしたことにより継続開催できている。

(3) 今後の課題・展望

地域の役員、民生委員児童委員とともに協力しあえば、今後も継続開催できると思う。

(4) メッセージ・アドバイス

地域ぐるみで委員長と話し合いながら進めることが必要。

内山学区コミセンまつり



【内山学区】

■世帯数：4,823 世帯

■人 □：7,037 人

■面 積：0.614k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・内山コミュニティセンターと内山小学校の多目的室を会場に「内山学区コミセンまつり」を2日間にわたって開催。延べ参加者数は約 600 人。
- ・コミュニティセンターで活動している各種同好会の発表や、写真などの個人の趣味の作品展示等を行っている。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

コミュニティセンターの運営に関するアンケートによって同好会が設立されたものであり、自主的な活動の発表の場を設けることによりコミュニティの啓発・促進に結びつく。

2 きっかけ、背景

コミュニティセンターの運営について、地域住民にアンケートを行ったところ、大正琴や生け花、工芸盆栽、パンフラワー（粘土で作成した造花）、コーラス、詩吟などの同好会を設立して欲しいという意見があった。そこで、学区内・外の講師に依頼し、これらの同好会を設立した。コミセンまつりを、同好会の発表の場とすることで、コミュニティ活動の啓発・促進のきっかけとしている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
民生委員児童委員、PTA、子ども
会、老人クラブ 計約 100 人

(2) 他団体との協力

学区連絡協議会（各種団体の 12
の幹部を含む）

(3) 運営協力

学区連絡協議会（各種団体の 12
の幹部を含む）

4 実施のスケジュール

7月3日 コミュニティ運営委員会（コミ
センまつりの企画）



7月10日 参加者等の募集・チラシ等の配
付



8月20日 コミュニティセンター、内山小
学校多目的室の準備



8月25日 （午前中）出展作品の設置
（午後～）コミセンまつり開始



8月26日 コミセンまつり終了
（午後 4 時 30 分閉館）

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- 参加者の増加、住民意識の高まりにより多くの人が交流する場となり世帯間の交流が深まっている。

(2) 苦労した点

- 参加者の確保。
- 写真展示では、プロとアマチュア作品の違いが明らかなため、展示場所を 2 部屋に分けている。

(3) 今後の課題・展望

- 内山コミュニティセンターは、開館して約 3 年となるが、活動を継続するためにも担い手の世代交代を進めることが必要。



行事实行委員会



【上野学区】

■世帯数：7,229 世帯

■人 口：15,445 人

■面 積：1.836 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- 学区の行事を支援する組織を結成し、盆踊り、敬老会、体育祭、成人式と行ったイベントの手伝いや盛り上げを行う。
- 年間の延べ約 800 人が学区行事の運営を支援している。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、回覧

【アピールポイント】

様々な学区の行事を通じて、学区内の方々の交流の場づくりの支援を行っていること。

2 きっかけ、背景

平成 8 年 4 月、上野学区を育てることを目的として設立。

住民間や世代間のふれあい、交流の促進のため、また、学区の育成・発展を目指して、学区の各種行事の活動を行う。

3 実施の体制

運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員
計約 300 人

4 成果と課題

(1) 成果・効果

学区行事の開催を通じ、住民間の交流など住民意識の高まりにつながっている。

(2) 苦労した点

支援組織を結成し、活動を行ううえで住民の理解を得ることに苦労した。

(3) 今後の課題・展望

活動資金の確保が今後の課題。



災害に強い高見学区をめざして



【高見学区】

■世帯数：6,277 世帯

■人 口：12,356 人

■面 積：1.062 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 高見コミュニティセンターや高見小学校などを会場に、「災害に強い高見学区」をめざして活動を行う。
- ・ 初年度の平成 23 年度には、学区連絡協議会定例会および執行部会での審議を重ね、各町内会が避難所を決め、学区諸団体の役割分担を明確にした。
- ・ 安心まちづくり大会、備蓄品の確認、防災リーダー講習会、防災訓練、学区の体育祭で防災リレー、名古屋市立東部医療センターとの防災訓練への相互参加、防災体制に関するアンケート調査を 3 回行うなど、多岐にわたる活動を行っている。延べ参加者数は約 1,400 人。
- ・ これらの活動概要を広報誌「あたたかみ」及び学区のホームページに掲載している。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示、学区連絡協議会での周知、広報誌（年 2 回）、ホームページ

【アピールポイント】

各町内会の避難所を決め、3 避難所の役員も 1 年任期の輪番制と決めることができた。

2 きっかけ、背景

東日本大震災の教訓を学び、災害時の避難先、被害者の確認・救助、支援物資の依頼・配布などの手順を明確にするため、「高見学区防災体制」を確立する。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員など

学区連絡協議会定例会 50 人及び執行部会 15 人 計 65 人

(2) 他団体との協力

学区連絡協議会の各種団体と協力している。

(3) 運営協力

避難所の担当役員を 1 年任期の輪番制とすることで、防災活動の協力者、後継者を広げている。

4 実施のスケジュール

H23 年 学区連絡協議会定例会、執行部会に
5 月 て「高見学区防災体制」について審議



6 月 第 11 回安心まちづくり大会
「防災体制に関するアンケート」実施



9 月 第 13 回高見学区防災訓練（名古屋
市東部医療センターが参加）



10 月 名古屋市東部医療センターの防災訓練に消防団はじめ約 40 人が参加



H24 年 「高見学区防災体制」を定例会で確
2 月 認



3 月 「高見学区防災体制」を広報誌およびホームページに掲載

5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民意識の高まり。東日本大震災の影響もあり、関心が非常に高かった。

(2) 苦労した点

単身居住者との連絡に苦労した。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続、担い手の世代交代。現役世代の参加、時間帯が制約されるが協力を得ていきたい。



春岡学区盆踊り大会



【春岡学区】

■世帯数：6,185 世帯

■人 口：10,080 人

■面 積：0.737k㎡

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・春岡公園と隣接の春岡公民館を会場に「春岡学区盆踊り大会」を2日間にわたり開催している。延べ参加者数は約 900 人。
- ・踊りの指導と浴衣の着付けを専門家に依頼している。
- ・平成 14 年頃に鉄骨製の“やぐら”を作成した。
- ・平成 21 年頃に大人から子ども主体の踊りに変更し、盆踊り大会をより活性化した。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

以前は櫓の上での踊りを民生委員、保健委員等の中から指名された人のみで行っていたのを、学区内の希望者は誰でも練習に参加すれば踊れることにした。

2 きっかけ、背景

学区自治会連合会（兼連絡協議会）の最大のイベントであり、過去数十年にわたり毎年開催している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員を主体として、民生委員児童委員、保健委員、PTA、防犯委員、町美委員 計約 50 人

(2) 他団体との協力

運営メンバーの各委員会、小学校 PTA



4 実施のスケジュール

H24 年 5 月 実行委員長の選出、日程の決定

6 月 実行委員の選出、大枠内容の決定、踊り練習案内
実行委員会にて詳細計画作成

7 月 踊り練習希望者集約、役割分担・詳細計画の決定
専門指導者による踊り練習(2 時間×3 日)

～8 月 飲みもの・弁当・アイスクャンディ注文、子ども用お土産購入

8 月 9 日～10 日 盆踊り大会開催 設営 9 日朝 解体 11 日朝

5 成果と課題

(1) 成果・効果

参加者の増加、住民間の交流の深まり。やぐら上での踊りを希望する人は練習に参加すれば誰でも良いとしたため、子ども 70 人が希望した。子どもの母親に積極的に参加を要請し、盆踊りが活性化した。

(2) 苦労した点

活動の担い手が不足。主担当である区政協力委員の 7 割が交代したため、やぐら・テントの設営解体作業を完全外注化し、委員の負担を軽減した。

(3) 今後の課題・展望

近隣住民への騒音防止。平成 23 年に大型スピーカーから小型 4 台に変更するとともに、音楽を流す時間を 2 時間半から 2 時間に短縮した。

つな引き、運動会、Xmas 会、ジュニアリーダー会議の育成



【田代学区】

■世帯数：11,094 世帯

■人 口：21,211 人

■面 積：1.887km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 田代学区子ども会は年間を通じて、毎年5～6回、学区全体を主体として活動を行う。
- ・ 田代小学校の校庭や会議室、コミュニティセンターでつな引き大会、運動会、ドッジボール大会などのスポーツイベント、Xmas 会などの季節行事を行う。参加者数は約 500～600 人。
- ・ ジュニアリーダー活動として、月1回の会議及びキャンプやボランティア活動を行う。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧のほか、各単位子ども会に任せている。

【アピールポイント】

町内の住民と子どもたちとの交流の場が増えるように努めている。

2 きっかけ、背景

子ども会活動を進めながら住民間や世代間のふれあいと交流の促進を進め、地域の伝統や歴史・文化を伝承する。毎月必ず会議を開催し、年間のスケジュールや行事内容を決めている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

子ども会（役員は 13 単位子ども会、理事は 3 人）計約 500～600 人

(2) 他団体との協力

小学校に呼びかけている。

(3) 運営協力

年に 1 回、育成者が各町内それぞれ変わるため、そのつど引き継ぎ、前年度の役員（理事）が指導する。

4 実施のスケジュール

月 4 回の会議（ジュニアリーダー会議も合せると月 8 回）のほか、運動会などの行事の時は全町内の子ども会で人数集めや役決めを行う。

毎年6月 ソフトボール大会



7月 つな引き



10月 運動会



12月 Xmas 会



1月 ドッジボール大会



2～3月 新・旧会議

5 成果と課題

(1) 成果・効果

参加者の増加、住民意識の高まり、住民間の交流の深まり、担い手の増加。

(2) 苦労した点

参加者の確保、住民の理解を得ること、他団体との協力。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続、担い手の世代交代、活動資金の確保。

(4) メッセージ・アドバイス

子どもと町内の方々との交わりを考え、これからの事業の取り組みを考えている。

東山学区青パト委員会



【東山学区】

■世帯数：9,498 世帯

■人 口：18,338 人

■面 積：2.418km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 週3回、1時間ほど、青色回転灯装備のパトロールカー、略して「青パト」に乗車して、学区内をまんべんなくパトロールする。
- ・ 2つの町内会を1チームとして12チームを組織し、当番制で活動する。パトロールは「パトロール実施者講習会」を受講した人が行う。受講済みの協力者は学区内に130人いる。

【アピールポイント】

青色パトロールカーは学区資源回収資金で購入した。学区内に講習を受けた協力者が130人おり、13団体組織され、安心安全で住み良いまちづくりに学区全体で取り組んでいる。

2 きっかけ、背景

地域の防犯、防災意識を高めるとともに、住民間のふれあい、交流促進のために活動を開始。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長

(2) 他団体との協力

区政協力委員、防犯委員、各町内会など

4 実施のスケジュール

H20 年 7 月 青色パトロールカー購入



8 月 パトロール実施者講習会



9 月 青パト出発式



毎年 12 月 青パト実施者講習会
週 3 回のパトロールとは別に年末に特別パトロールを実施

5 成果と課題

(1) 成果・効果

学区民の防犯意識が高まり、大変喜んでいる。

(2) メッセージ・アドバイス

常に絆を持ち、無理なく続けていくことが大切。



地域と学校の協同による 「持続可能なコミュニティ」を育成する取り組み



【見付学区】

■世帯数：4,259 世帯

■人 □：8,092 人

■面 積：1.556 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 愛知県教育委員会主催の「高大連携 高校生防災教育推進事業『高校生防災セミナー』」に参加している高校生と学区内の防災組織「みつけ防災会」のメンバーが中心となり、生徒と地域住民が防災・減災に関しての共通意識を持つ活動と、中高生と地元の人との異世代間コミュニケーションを推進する。
- ・ 平成 24 年は名大付属学校の学園祭「光粒祭」において、地域の避難所となっている学校施設の見学会を開催し、付属学校に常備されている防災備品の紹介や非常食の試食会を行うとともに、学区在住の方の災害の体験談を通じ生徒とのフリートークを行った。
- ・ また、同時に地域住民へのアンケートを行い「防災について何が知りたいのか」を調査した。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

2 きっかけ、背景

地域の防災組織である「みつけ防災会」と地域の避難場所になっている「名古屋大学教育学部附属中・高等学校」が協同して「持続可能なコミュニティ」の育成に取り組む。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、子ども会 計約 30 人

(2) 他団体との協力

見付小学校 PTA・おやじの会

4 実施のスケジュール

平成 24 年 9 月 15 日

名大付属学校「学校祭」において、連携防災交流イベントを地域住民を対象に開催。

付属学校に常備されている防災グッズの紹介と、その取扱いについて地域住民と生徒が情報共有する。同時に地域住民を対象に「防災について何が知りたいのか？」アンケート調査を実施。

名大附属学校学園祭 **光粒祭** 連携防災交流イベント

**見付学区の避難所に指定されている
名大附属学校を見学しませんか**

大震災や風水害が起きたら、ここで避難生活をするようになるかもしれません！

日 時：2012年9月15日(土) 11:50 名大附属学校への入り口付近
みつけ防災会受付に集合

実施場所：名古屋大学教育学部附属学校 第一体育館北側テント付近

- 名大附属学校(避難所)に備えられている防災備品の紹介と非常食の試食会
- 避難所(第一体育館)を中心に校内見学ツアー
- 大災害体験者の経験談(学区在住の方々)をテーマに
参加の生徒さんたちとフリートーク

14:30頃までご利用下さい

名古屋大学教育学部附属中学校 高等学校

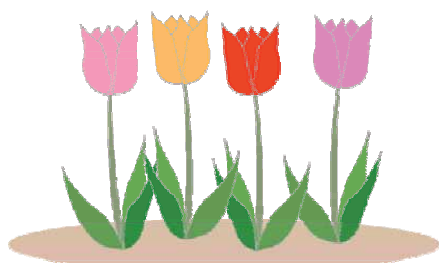
みつけ防災会
受付・展示場所

入校にはチケット(チケット)が必要です。お持ちでない学区住民の方には、みつけ防災会受付でお渡しします。

名古屋大学
キャンパス

見付学区の防災を考える会

星ヶ丘学区桜が丘街園花と緑のスポットづくり隊



【星ヶ丘学区】

■世帯数：3,388 世帯

■人 □：6,610 人

■面 積：2.141 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・名古屋市東部の東山公園から東名高速道路の名古屋インターにつながる区間において、市民・企業・行政機関とのパートナーシップで「緑あふれる快適な空間づくり」を進めている。その一部を占める桜が丘街園の学区住民による植樹と花壇づくりを継続して行っている。延べ参加者数は年間約 450 人。
- ・千種土木事務所の応援により街園のレイアウトを作成、花壇には春咲き・夏咲きと秋咲き・冬咲きの年 2 回の植付けを行う。年間を通して水やり草取りを行い維持管理している。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、回覧

【アピールポイント】

平成 16 年 4 月 12 日第 14 回緑のデザイン賞国土交通大臣賞受賞
平成 16 年 4 月 22 日桜が丘街園の道路緑化道路施設の充実にて市長より感謝状を受ける。

2 きっかけ、背景

幹線道路（東山グリーンウェイ）の拡幅部の活用について、学区連絡協議会として検討し、「街園」（植木および四季の花の花壇）づくりを行うと決定した。学区住民に計画と活動について広報を行い、スタートした。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、老人クラブ、愛知淑徳大学のボランティアグループ 年間約 450 人

(2) 他団体との協力

愛知淑徳大学のボランティアグループ

4 実施のスケジュール

年間を通して水やりと草取りを行う。

H15 年 3 月 桜が丘街園花とスポットづくり隊発足



6 月 春・夏咲き苗の植付け



11 月 秋・冬咲き苗と植替え



H16 年～ 上記サイクルにより継続



5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 住民意識の高まり。住民の参加者意欲が高まり、緑化意識が向上した。
- ・ 大学生の町美緑化意識が高まっている。

(2) 今後の課題・展望

- ・ 活動資金の確保。現在、苗は市斡旋で購入しているが平成 25 年度よりできなくなるため、苗づくりから行うとなると場所と費用の面が心配。

(3) メッセージ・アドバイス

- ・ 道路及び公有地を利用した緑化により街の美化と住民の緑化に対する意識が向上する。

環境デー自由ヶ丘、ふれあいサロン、 親子リズム体操などの開催



【自由ヶ丘学区】

■世帯数：3,227 世帯

■人 口：6,946 人

■面 積：0.828 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

自由ヶ丘会館を会場に、学区内住民の交流の場として毎月行事を実施。役員会で内容を企画しスケジュールを作成する。

① 環境デー自由ヶ丘

廃油石けん作りとゴキブリ団子作り

② ふれあいサロン

学区内の人々の交流の場となっている（布ぞうり作り、映画鑑賞会、健康体操、アートフラワーなど）

③ 子育て支援

親子リズム体操、小学生の下校時見守り、小学校校庭の草取り

④ 学習会

防災学習会

⑤ 芸能

踊りの会、銭太鼓の会、歌う会、縫う会がある

⑥ 自由ヶ丘会館の管理

【アピールポイント】

学区内の住民の交流の場となっていること。

2 きっかけ、背景

平成 18 年に地元の学区連絡協議会からの勧めで創立。会員自ら入会を希望し、会費を納めて活動に参加している。学区内の交流を目指して事業を検討・企画した。

3 実施の体制

運営メンバー

女性団体・女性会 約 70 人



4 実施のスケジュール

役員会等で内容や企画、スケジュールを作成

環境デー自由ヶ丘	毎月 1 日（1 月は休み）
----------	----------------

ふれあいサロン	毎月 1 ～ 2 回
---------	------------

子育て支援	親子リズム体操	毎月第 3 月曜日（祝日、お盆は休み）
	小学生の下校字見守り	毎月第 3 木曜日
	小学校校庭の草取り	年 2 回

学 習 会	年 4 ～ 5 回
-------	-----------

芸 能	踊りの会	毎週日曜日	銭太鼓	月 2 回
	歌う会	第 1 ・ 3 木曜日	縫う会	第 2 ・ 4 木曜日

自由ヶ丘会館の 管理委員会	毎月第 1 月曜日
------------------	-----------

5 成果と課題

(1) 成果・効果

会館まつり、盆踊り、敬老会、区民まつり、花いっぱい運動など学区の行事への協力により、住民間の交流が深まった。

(2) 苦労した点

ボランティア活動のため、住民の理解を得ることに苦労した。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続が今後の課題。

文化祭



【富士見台学区】

■世帯数：6,381 世帯

■人 口：15,709 人

■面 積：1.678 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

富士見台会館とその周辺を会場に文化祭を開催。延べ 1,000～2,000 人が参加する。

① メイン会場

学区内で活動するサークルや教室の発表、自由参加のカラオケ大会等

② 作品展

書道・絵画、手作り細工品・洋服、聾学校生徒の工芸品等の展示

③ 模擬店

会館周辺での飲食の模擬店

④ 子ども広場

手作りコーナー、遊びコーナー

【住民への PR 方法】

チラシの回覧

【アピールポイント】

運営メンバーも参加者も楽しく参加してくれている。

2 きっかけ、背景

住民間や世代間のふれあい、交流促進のために開催。平成24年で23回目の開催となる。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員、各種体育団体、学童保育所、トワイライトスクール 計約100人

(2) 他団体との協力

会館利用各種団体、トワイライトスクール、学童保育所

(3) 運営協力

子ども会・学童保育所の父母の参加によって若い世代へのアピールができる。

4 実施のスケジュール

毎年7月 実行委員会立ち上げ（委員選出含む）

8月 実行委員会にて役割分担を決定
各種団体等への作品依頼

9月 模擬店の材料依頼

10月 最終確認

文化祭開催



5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民間の交流が深まった。

(2) 今後の課題・展望

活動の継続が今後の課題。



安全で安心な住みやすい町づくり



【宮根学区】

■世帯数：3,708 世帯

■人 □：8,510 人

■面 積：0.698 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

学区全域において、「安全で安心な住みやすい町づくり」を進めている。延べ参加者数は 500 人。

- ・ 空き巣防止の看板表示
- ・ 防犯パトロール
- ・ 街頭での交通事故防止キャンペーン
- ・ 登下校時の小中学生見守り活動
- ・ 年数回の交通防犯会議

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

交通防犯会議の開催や各種キャンペーン、チラシの配布、各町内会・自治会での呼びかけで、地域住民の意識が高まった。

2 きっかけ、背景

千種区内でも有数の住宅地であり、数年前までは空き巣等の犯罪が悩みの種だった。また、周辺の道路整備で区域外から学区内を通り抜ける車も多くなり、交通事故も増加したため、犯罪の防止や交通事故撲滅を目的に乗り出した。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員 計約 40 人

(2) 他団体との協力

小中学校 PTA、消防団、民生委員児童委員、学童保育所、老人会など

(3) 運営協力

町内会・自治会ごとにリーダーを養成している。老若男女を問わず参加してもらうようにしている。

4 実施のスケジュール

毎年度、当初に学区内で年間スケジュールを立てるほか、毎月 1 ～ 2 回の町内会・自治会の会議で地域内の防犯、交通事故状況を周知徹底している。

5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民意識の高まり。この取組みにより学区内の犯罪や交通事故は激減、平成 23 年 4 月には愛知県警本部長から感謝状を受けた。

(2) 苦労した点

参加者の確保。最初は役員の仕事と考えている人が多かった。いまでは一般の人たちもキャンペーンに参加するようになった。

(3) 今後の課題・展望

担い手の世代交代。高齢化社会で今後、若い世代の参加、意識の高まりをどうするかが課題。



青少年育成活動講演会



【千代田橋学区】

■世帯数：3,635 世帯

■人 □：8,767 人

■面 積：0.948 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

小学校高学年以上及び保護者と千代田橋・宮根学区住民を対象に「夜回り先生」こと水谷修氏の講演会を開催した。会場は香流橋地域センター体育室で、約 330 人が参加した。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、ポスター作成・掲示、広報誌

【アピールポイント】

青少年の非行、薬物乱用の実態がどうなっているのか、どうすれば防止できるのかについて、豊富な経験を持ち、活動をしている水谷氏の講習会を開催した。

2 きっかけ、背景

青少年育成活動については、毎年何らかの行事を行っているが、10 年に 1 回程度、大々的な行事をやろうとの発案で企画・実施した。

3 実施の体制

運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、交通委員、防犯委員、消防団員、PTA、子ども会、学童保育、老人クラブ、スポーツ推進委員、地域センター委員ほか 計約 40 人

4 実施のスケジュール

H23 年 10 月 水谷修氏の講演会を役員会で決定

11 月 ポスター製作開始（写真使用許可等手続き）

12 月 「いこいニュース」にて広報、ポスター完成

H24 年 1 月 担当等レジユメ作成・打合せ

1 月 19 日 講演会



5 成果と課題

(1) 成果・効果

- 参加者の増加、住民意識の高まり、住民間の交流の深まり。会場に見合った人数が参加した。講演から、中・高校生から今や小学生まで薬物に染まっている実態がわかった。

(2) 苦労した点

- 当日はどのくらいの参加者が集まるのか、「少なすぎても困るが、多すぎても…」と危惧したが、結果はちょうど良い人数が集まった。

(3) 今後の課題・展望

- 話の内容に相当する中学生・高校生の出席が少なかった。
- 地域の大人がどう関わって行けば良いかなど勉強になった。

